報告資料

うつのみや人づくりビジョン策定懇談会（第７回）会議録

○　**日時**　平成 16 年 12 月 22 日（水）　午後 1 時 32 分～午後 4 時 8 分

○　**場所**　市役所　教育委員室

○　**出席者**

〔委員〕太田周，小林順子，若林治美，安久都和夫，毎澤典子，高橋克知，藤沼千春，麦倉仁巳，船津祥，佐々木英明，渡辺映子，赤羽根肇，栗坪容子，石井智子，加藤英典（欠席　青柳宏，中村正之，遠藤敏幸）

〔事務局〕教育長，教育次長，教育次長（学校担当），教育企画課長，学校教育課長，文化課長，スポーツ振興課長，教育センター所長
教育センター所長，ほか６名

○　**公開・非公開の別**　公開

○　**傍聴者**　0 名

○　**会議経過**

１　開会

２　報告事項

(1) **第６回会議録の確認について**

３　協議事項

(1) **提言書（案）について**

(2) **次回会議日程について**

４　その他

５　閉会

○　**会議の結果**

１　報告事項

(1) **会議録について**

⇒報告資料１「第６回会議録」をもとに，事務局より説明し了承を得た。

２　協議事項

(1) 提言書（案）について

⇒協議資料１をもとに，事務局より説明。その後，意見交換を行った。

(2) **次回会議日程について**

⇒第８回懇談会の開催日時について協議し，１月１１日（火）午前１０時００分から開催することとした。

○　**発言の要旨**

１　提言書（案）について

（1）　「はじめに」について

赤羽委員　：　経済が低迷しているかどうかは明確ではないと思う。それよりも，現在の社会経済構造変化の中で様々な問題が起きていることを表現するべきだと思う。

渡辺委員　：　社会変化をプラスに受けとめるのではなく，ありのままを真摯に受けとめることが重要ではないか。社会変化を前向きに受けとめることが表現されるべきだと思う。

（2）　「変革をせまる時代の潮流」について

赤羽根委員　：　「価値観の多様化と混乱」とあるが，時代の潮流の中で「混乱」まで表現することは，他の項目と整合性がとれないと感じる。強調するために入れたのか。

佐々木副主幹　：　「価値観の多様化」には，よい面や悪い面など様々な面があると思うが，この提言では，人づくりの視点から，個を重視しながらも，社会生活に最低限必要な価値観を明らかにするという内容が入っている。そのため，「混乱」を表現し強調するために入れている。

太田委員　：　定住外国人を含めた新たな労働力を活用していく状況において，多文化共生の必要性があることを具体的に表現してはどうか。また，日本は，世界的に見て高齢化が進んでいる。この状況を高齢者という人材が豊富であるというようにポジティブに捉えることが重要となると思う。

小林委員　：　時代の潮流であるので，一般的な表現となっているが，特に宇都宮市の特徴がわかる現状や数値などがあれば具体的になると思う。

(3)「人づくりの基盤としての対話」について

赤羽根委員　：　「対話」は，宇都宮の人づくりの基盤となる重要な部分であるので，表現を強調してはどうか。

麦倉委員　：　対話の定義や説明が難しいと感じる。もう少し分かりやすい表現として，市民全体で共有できる表現とするべきではないか。

太田委員　：対話の方法で「空間を共有」とあるが，相手を思いやり，フェイストゥフェイスで直接やりとりすることの重要性をうたっているので，「時と場所を共有」とした方が分かりやすいと思う。

(4)「各ライフステージへのメッセージと人づくりのための５つの提言」について

①乳幼児期

渡辺委員　：　基本的生活習慣を身につける中で，乳児にとって重要な排泄や自ら着替えをすることなども，メッセージに入れてはどうか。

毎澤委員　：　「起床」「食事」「睡眠」は特に重要であるので，メッセージに入れ，その他の排泄等については，役割の中で説明すれば分かりやすくなると思う。

船津委員　：　メッセージは，そのライフステージの市民への呼びかけで，提言はその年代の市民をサポートする家庭，地域，行政等の役割を示したものである。提言とメッセージの内容が違うのに同じ枠の中に記載しているので分かりづらい。別の枠で示した方が分かりやすいと思う。

藤沼委員　：　対話をする上で，「あいさつ」はとても大切なものだと思うので，その部分を加えてはどうか。

麦倉委員　：　「兄弟姉妹」は家庭の中で社会性の基礎を育む上で，大きな意味がある。より強調するために表現に加えるとよいのではないか。

②少年期

毎澤委員　：　小中学校では，自己肯定観を身につけることが重要であると感じている。課題に挑戦させることや正しい自己主張，ルールを守ることなども加えてはどうか。また，少年期のなかで前期と後期では，大きな違いがあるのではないか。

若林委員　：　ライフステージの区分については，人づくりを大きく捉えることで理念や目標を設定しているので，これ以上細かく区切る必要はないと思う。

赤羽根委員　：　小中学生では，情報収集・活用は難しい。他の人との意見交換などをして，自力解決に取り組むとした方がよいのではないか。

③青年期

小林委員　：　メッセージで「奉仕活動など」と表現しているが，「様々な活動」としてより広くとらえられる表現としてほしい。

栗坪委員　：　年下の子どもたちを対象としたニューリーダーとしているが，今後は世代を超えた活動も重要となってくると思う。

佐々木主幹　：　まずは，年下を対象としたリーダーとして資質を育成するという意図でメッセージに表現しているのでご理解いただきたい。

栗坪委員　：　「法律よりも小さいモラルから実践」とあるが，規則を守り，身近なモラルを実践するという意図であるにもかかわらず，法律が軽視される可能性もある。表現を工夫してはどうか。

加藤委員　　：　「将来の青写真」という表現は，青年期には伝わりにくいと感じた。「将来のビジョンを設計する」と表現したほうが分かりやすいと思う。

④成人期

小林委員　　：　「夢を追いながら，自己実現する」とあるが，ただ夢を追うだけではなく，現実を受け止めた上で自己実現することを表現してはどうか。

毎澤委員　　：　「新しいものを作り出す喜び」の部分は，創造するということを表現するために「創りだす」としてはどうか。

⑤高齢期

麦倉委員　　：　自己を育むだけではなく，高齢者は社会の関わりの中で生きがいを持つことが重要な意味を持つと感じる。高齢社会を前向きに捉えるという視点で，今まで培った英知を他者や社会に還元することも大切である。

船津委員　　：　今までの経験・知識を活かすだけでなく，高齢期においても新たな可能性を発見できる。その部分も加えるべきではないか。

太田委員　　：　過去の経験をありのままに受け止め，それまで蓄積した知識を活かし，生涯学習などを通じて新しい自分を発見する。そうしたことは，これからは特に高齢期に求められると思う。